

平成 28 年度 自己評価結果公表シート

星名学園

1、学園の教育目標

「明るく 正しい 賢い子」を建学の精神とし、「遊びの中・生活の中での言語」を教育の目標として日々の保育に取り組む。
80 周年を終え、さらに地域の幼児教育の拠点となるべく務める。
本園ではめざす幼児像として次の 5 項目を活用する
1、心の教育（仏さまに手を合わせ感謝する心をはぐくむ）
2、音感教育（協調性を養い達成する喜びを得る）
3、自然教育（たくさんの自然に触れ情緒を安定させる）
4、言語教育（視覚言語「漢字」国際言語「英語」を活用して賢い子に育てる）
5、体育遊び（体位向上を目指す）

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

四季を感じるように季節ごとに同じ場所に出かけてみる。
数の指導を始める。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評 価 項 目	取 組 状 況
教育課程を幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	世界平和、国際協調を念頭に置き、国際社会に対応できる人材の育成を目指し、日常の中の言語を中心に進めている。
教育要領、教育課程を子どもの実態などをもとに考えて作成している。	同じく国際社会を視野にこれからの実情に沿ったものを子どもの負担が無い形で取り入れている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	危機管理、危機対応のため朝礼にて事例を読み保育中の危険について話し合う。
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	職員会議にて行事の実施確認や反省を行う。また、個別の子どもについても特筆すべき事項を共通認識する。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の子どものよさを認め、教師が客観的に子どもを見る目を養うように努めている。
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	自分で工夫して遊び、それが発展して友だちと協力して遊べる環境を準備するようにしている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行なう。	登園から降園までの一日の流れの中で、身に付けてほしい生活習慣の獲得を促している。リズムを大切にし、音だけでなく生活の部分でもリズムが鍵となっている。
全職員が年に 1 回以上公開保育を行なう。	各教職員が公開保育を行い、保育を見てもらう事によって、よりよい保育環境を意識できるようにしている。

各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	教員免許更新講座に積極的に出席し研鑽を積む。 職員間の意思疎通をする会を作る。 園内研修を毎月 1 回行う。
幼稚園の情報を発信していく。	梨の部屋の募集をかほく市広報にて行う。地元の方が多く利用し、そのまま幼稚園部に進学してもらえる。
園の財務状況を積極的に公開する。	公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。
安全管理	避難訓練の毎月実施、避難経路の確認、地震時の避難確認

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	数について百玉算盤を使い楽しく数を数えることに興味を持った。 園内研修は回数を行うことができたが、内容について不十分で研鑽する必要がある。 危険事項の読み合わせも不十分。時々の園内でのヒヤリハット確認に留まった。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
こども園化へのステップ	3 0 年度こども園化へ向けて申請を進めていく。
コミュニケーション	職員数が増えたことによる職員間のコミュニケーションの質を向上
安全確保	施設の経年劣化により更新が必要になる。（アスベスト・耐震）旧園舎 4 教室を撤去し、6 教室新設へ。

6、学校関係者の意見

（学園理事会） 良	（学園評議会） 良	（保護者会） 優良
優良・良・可・不可		